



O R F E U N E G R O

黒いオルフェ

[ニュープリント・原語〈ポルトガル語〉版]

1960年 アカデミー賞最優秀外国語映画賞受賞 
1959年 カンヌ国際映画祭パルム・ドール賞受賞 
1960年 ゴールデン・グローブ賞最優秀外国語映画賞受賞 

運命のまま、《永遠の愛》へと導かれてゆくふたり。
世界を熱狂させた珠玉の名作が、40年の時を超え甦える。

監督:マルセル・カミュ/音楽:アントニオ・カルロス・ジョビン/出演:ブレノ・メロ/マルベッサ・ドーン/1959年/フランス・ブラジル合作/配給:ギャガ・コミュニケーションズ/宣伝:ギャガGシネマ/www.gaga.ne.jp

O R F E U N E G R O

黒いオルフェ

魂を揺さぶるボサ・ノヴァの名曲にのせ、愛の奇蹟が40年の時を超えて、
ニュープリント・原語〈ポルトガル語〉版としてよみがえる!

1959年にフランスとブラジルの合作映画として製作された『黒いオルフェ』は、'59年のカンヌ国際映画祭の最高賞であるパルム・ドール賞、'60年のアカデミー賞最優秀外国語映画賞、ゴールデン・グローブ賞最優秀外国語映画賞を受賞。フランス他ヨーロッパ諸国での成功はもちろん、本国ブラジルでは、当時の興行記録を塗り替える大ヒットとなった。ギリシャ神話に語り継がれた、オルフェとユリディスの死を超えた愛の伝説をもとに、ブラジルの詩人ヴィニシウス・ヂ・モライスが書き下ろした戯曲『オルフェ・ダ・コンセイソン』。1956年にリオ・デ・ジャネイロで初演されたこの舞台は、オルフェの伝説を、

ブラジルのリオのカーニバルを舞台とした男女の恋の悲劇に置き換えたもの。『黒いオルフェ』は、このモライスの原作をベースに、ヌーベルバーグ派の才人、フランスのマルセル・カミュが監督し、当時のリオのカーニバル期間中にオールロケし、映画化された。1960年の日本初公開当時は、現地収録ポルトガル語版にて上映されたが、その後、再映及び日本版ビデオにはフランス語吹替版が使用され、この度、ポルトガル語によるオリジナル・バージョンの貴重なプリントにより初公開時の熱い情熱が40年ぶりにスクリーンによみがえることとなった。



STORY

運命のままに、〈永遠の愛〉へと導かれるふたり…。

熱狂のカーニバルの始まる日、ユリディスは汽船で従姉セラフィナの住むリオにやってくる。市電の車掌をするオルフェとのか運命の出逢い。しかし、不幸を暗示するかのようにな死の仮装をした男がユリディスにつきまとう。カーニバルの熱狂と喧騒の中、事故死してしまうユリディス。オルフェはユリディスの亡骸(なきがら)を腕に抱き、リオの街をさまよう。現実の死を乗り越え、〈永遠の愛〉で結ばれようとするオルフェだが…。



MUSIC

悲しみは果てしなく
しあわせははかない
朝つゆの玉のように…



リオの美しい風景の中、熱狂的なサンバと神秘的で哀しいボサ・ノヴァの音楽が、男女の激しい恋の悲劇にリアリティを与えている。音楽は、当時ボサ・ノヴァと共に急速に台頭してきたブラジルの音楽家アントニオ・カルロス・ジョビンとルイス・ボンファが担当しており、《フェリシダージ(悲しみをさようなら)》や劇中オルフェの弾き語りで歌われる《カーニバルの朝》(黒いオルフェ)などは世界的に大ヒット、今なお我々の心を揺さぶる名曲である。

CAST&STAFF

製作・監督:マルセル・カミュ/脚本:ジャック・ヴィオ/原作:ヴィニシウス・ヂ・モライス/撮影:ジャン・ブルゴワン/音楽:アントニオ・カルロス・ジョビン、ルイス・ボンファ

出演:ブレノ・メロ(オルフェ)、マルベッサ・ドーン(ユリディス)、ロールデス・デ・オリヴェイラ(ミラ)、レア・ガルシア(セラフィナ)、アデマール・デ・シルヴァ(死の仮面の男)、ワルデタル・デ・リーザ(セラフィナの恋人シコ=ポト)

1959年/フランス・ブラジル合作/107分/
配給:ギャガ・コミュニケーションズ/宣伝:ギャガGシネマ

ニュープリント・原語〈ポルトガル語〉版にて
今夏《運命》のモーニングショー!

(当日料金:大人・学生¥1,500/中・高・シニア¥1,000)



シネマライズ

渋谷公園通りパルコバート3前
E-mail:rise@cinemalise.com
TEL:03-3464-0051